第4回 デジタル行財政改革

課題発掘対話

令和5年10月26日(木) 17:00～18:30

参加者

有識者1
自治体ICT・DX/PCT/PMO支援事務局
正能 茉優 氏
学生時代にICTによる自治体の効率化に関する研究に取り組んでいました。その経験をもとに、ICTを活用した業務効率化や情報共有の仕組みを構築し、特に自治体DXの推進に貢献しています。現在は、自治体DX推進支援事業を通じて、デジタル技術を活用した業務改善や、住民サービスの向上に取り組んでいます。

有識者2
都市連携・みらい推進課 都市政策係長
事務局長兼事務局員
二宮 博文 氏
現在、ICTコンサルタント株式会社を経験者採用で入社し、自治体DXに関する業務を担当しています。特に、現在は自治体ICTの活用を通じて、住民サービスの向上や、業務効率化のプロジェクトに携わっています。これまでの経験を活かして、より効果的な取り組みを目指しています。

有識者3
地域共創推進課 地域共創係 係長
野本 宣寿 氏
現在、この3年間、地域共創係の係長として、地域共創推進課に配属されました。これまでの経験を活かして、地域共創係の係長として、地域の皆様が安心して暮らせるまちづくりを目指して、地域共創推進課の業務を推進しています。

有識者4
ICT・情報化による地域活動の活性化推進プロモーション担当課長補佐
小池 義則 氏
情報処理の知識・スキルを活用して、地域の課題解決に取り組んでいます。これまでの経験を活かして、ICTを活用した地域活性化プロジェクトを推進しています。今後も、地域の皆様のニーズに応えるべく、ICTの力を最大限活用していきます。

モデレーター
こども未来部 部長
畑中 洋亮 氏
こども未来部 部長として、こども政策統括チーム、ポプラハイツ管理センター、教育研究所を所管しています。一般財団法人Japan+D理事として、「子育て世帯の負担軽減」「子育て支援の推進」「こどもに寄り添った子育て環境の実現」を目指して、自治体情報システムの共同利用推進事業の運営や、DXの推進を担っています。

サポート
JAPAN+D

デジタル行財政改革推進支援事業
河野 太郎 氏

デジタル行財政改革支援
佐藤 孝弘 氏

デジタル行財政改革支援
渡 俊雄 氏

デジタル行財政改革の目的

人口減少 人手不足の影響

人口減少・人手不足でも、子育てサービスを効果的に提供し続けるため、デジタル技術を活用した効率化や効果的な実施を推進します。

利用者起点

供給者目線ではなく、現場の声を政策に反映し、利用者起点の子育てサービスを実現していきます。

デジタルによる社会変革

子育て・保育分野での、デジタル技術の導入と制度的・社会的環境の見直しによって、自治体や保育施設の負担軽減や、保護者にとっての利便性向上を推進します。

課題の整理

正能 茉優さんから語られた 課題

1. 手続が多く複雑、時間がかかる

- 妊娠、出産、子育ての手続が多く、複雑。
- 手続に あたって、母親2人月目に360枚以上の紙を確認し、役所にも7回ほどなど、電話や来打にも時間がかかる。
- 保育・ベビーシッター利用手続が複雑で、復職日までの利用決定が間に合わないことも。

2. 関係者のデータ連携が課題

- 出産時の医療費（保証金）払戻し手続には、医院側と自治体・病院間での各個の手続が必要。
- 心身ともに不安ではない時期に、多くの人に負担をかけ、自治体にも正しい状況が届く。
- 関係者のデータ連携による手続の簡略化が必要。

3. 気軽に頼れる共助の仕組みを

- 分からないことを直に聞いたり誰かにかける、心軽い状況。
- 信頼できる人の情報が欲しい。オンライン・リアル両方で気軽に頼れる地域の仕組みが必要。

二宮 博文さんから語られた 課題

1. デジタル活用による手続効率化

- 子育て手続きが頻繁という意見はあい。
- 現在では窓口等職員が相談のみで、1枚見あるの母子手帳の申請を一部アプリ化。
- アプリにサービスの予約機能を つけるなど、人のふえを防ぐ仕組みも検討。
- デジタルの利点を活かした頻繁な手続の効率化が重要。

2. 自治体間の情報共有をスムーズに

- 里帰り出産を行う方の現場については、里帰り先の自治体と結び、電話で やりとりしており、事務負担が大きい。
- 情報連携に関する制度設計もしたうえで、自治体間のデータ連携を進め、情報共有をスムーズにする必要。

3. 顔の見える関係も重要

- 新生児訪問や健診等、健康・医療面のサポートでは、顔の見える関係が ひろ、対面での丁寧なフォローアップが重要。
- デジタル化による便利さ や顔の見える関係 と 両時に、さ が相ゆ なり子育サービスの信頼が重要。

野本 宣寿さんから語られた 課題

1. 保活・入園手続きに負担の声

- 保活や入園手続の頻度と が負担との保護者の声が多い。
- 特に窓口・市外預かりの組入者の場合、転入が少なく、保育園側との情報のやりとく、負担が大きい。
- 一方、オンラインで手続きを完結し、受学ゼ ず 以 入園 決 の に 場合、 ミスマッチ が 生 ま ま す れ もあるため、デジタルの活用 が に は 留 が 必 要。

2. 保育園での事務・記録業務の負担

- 保育士に求められる社会的役割が増大。一人ひとりへの丁寧な個別対応時間が圧迫 と、保育士に求められる記録が増えている。
- 自治体への提出業務も、自治体ごとの様式が異なるために複雑。
- 保育ICTを活用した業務効率化 に、職員配置事 の引き上げが必要。

3. ICT導入の不安感

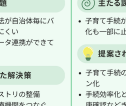
- 保育ICT導入に不安感を持つ保育園 な多い。
- 保育ICTを活用した業務効率化により、保育の質の向上につながることを伝えていく必要。

小池 義則さんから語られた 課題

1. 制度や施設の情報が未整備

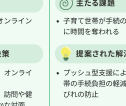
- 子育て世帯に情報を届けるには、身近な民間アプリやサイトの活用が重要。
- 現在、子育て支援制度や施設の情報が整備されておらず、どこ型から子育て世帯への情報発信が難しい。
- 民間企業が使いやすいよう、制度や施設の情報を整備する必要。

2. システム開発の障壁



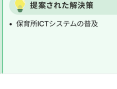
- 自治体毎にシステムが異なり、標準化されていたため、システム開発にあたってのコストが大きく、費用対メリットが小さくなる。
- 現状の業務をそのままデジタル化すると、かえって作業量にとっては負担が増えてしまう。
- 業務標準化、自治体を跨いだ標準化、BPR（業務改革再 フロー の 見直し）を実施し、上 と の デジタル化が重要。

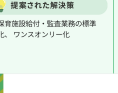
3. ICT導入推進に向けて



- 保育40,000施設のうち、約17,000がICTを導入し、その不満が業務負担が減った と回答。
- ICTを活用した業務効率化により、保育の質と安全性向上を目指べき。
- ICT導入推進に向けて、保育士への研修や実務フローの整理が重要。

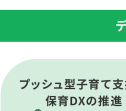
発掘された課題





環境を作る / 環境をつかう / 効果を測る

子育て関係手続



主たる課題

- 制度や申請方法が自治体毎にバラバラで煩雑にない
- 関係者間のデータ連携ができていない

提案された解決策

- 支援制度レジストリの整備
- 国・地方・医療機関をつなぐデータ連携基盤の整備

環境を作る

主たる課題

- 子育て手続が複雑、オンライン化も一部に止まる

提案された解決策

- 子育て手続の簡略化、オンライン化
- 手続効率化と同時に、訪問や健康確認などさめ補やかな対面サービスも

環境をつかう

主たる課題

- 子育て世帯が手続の理解と実行に時間を奪われる

提案された解決策

- プッシュ型支援による子育て世帯の手続負担の軽減、もらいそびれの防止

効果を測る

保育現場の負担軽減

主たる課題

- 保育現場では紙やexceltの運用が大半を占める

提案された解決策

- 保育所ICTシステムの普及

環境を作る

主たる課題

- 保育現場の業務の標準化ができていない

提案された解決策

- 保育施設給付・監査業務の標準化、ワンスオンリー化

環境をつかう

主たる課題

- 保育現場では書類作成等の事務負担がえい

提案された解決策

- 保育DXによる保育現場の事務負担の軽減

デジタル行財政改革の目指す姿のイメージ